1510500T

Ｍａｃ Ｓａｆｅ
ユーザーズマニュアル

販売元　株式会社ユタカ電機製作所
開発元　株式会社アイシーエス

はじめに

本書は、Maciontosh 版のＵＰＳ監視ソフト「ＭａｃＳａｆｅ」の取扱説明書です。ＭａｃＳａｆｅのインストール方法や使用方法について記述します。お使いになる前に本書をよく読み、操作方法を理解して正しくご使用下さい。

Maciontosh、漢字 Talk は米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
ＭａｃＳａｆｅはアイシーエス社で商標を申請中です。
その他本書に記載されている会社名、商品名は各社の商標、または登録商標です。

ご注意

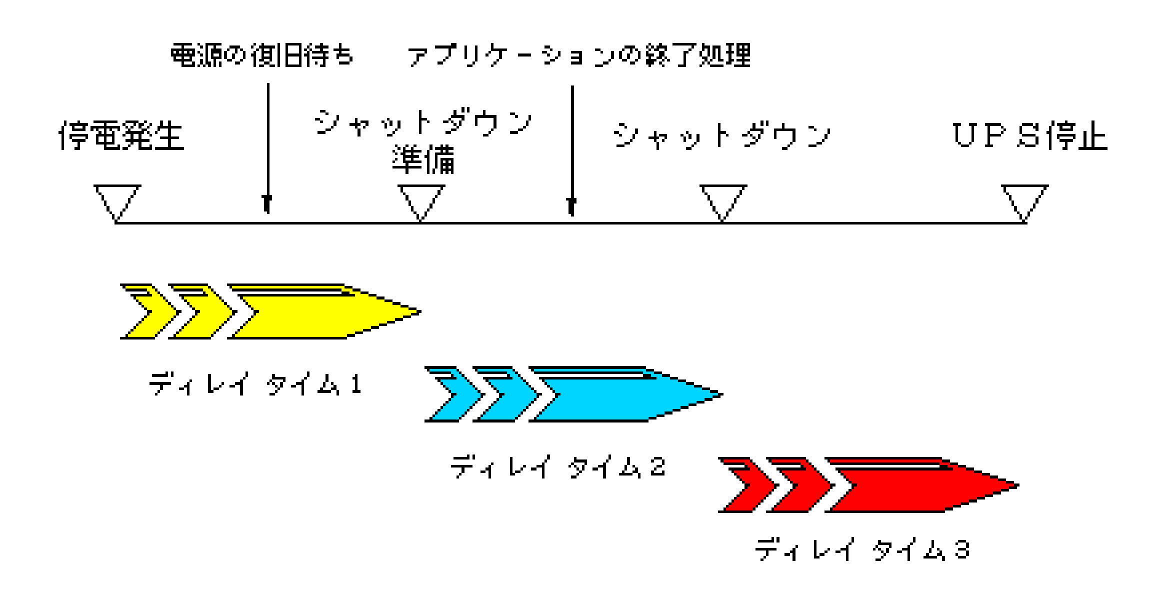
・本書の著作権および本ソフトウェアに関する権利は、すべて株式会社アイシーエスに帰属します。
・本書の内容および本ソフトウェアを無断で複写することは、固くお断りします。
・本書または製品の内容は、予告なしに変更することがあります。

１．ＭａｃＳａｆｅについて

１．１概略

ＭａｃＳａｆｅは起動中常に接続されているＵＰＳを監視し、ＵＰＳに異常が発生した場合には即座にアプリケーションの終了処理と Macintosh のシャットダウンを行うとともにＵＰＳ停止を行います。
また、停電発生など Macintosh を終了しなければならない状態になった場合には、画面上にメッセージを表示するとともに設定されたコマンドの実行またはアプリケーションの終了処理を行い､Macintosh のシャットダウンおよびＵＰＳ停止を行います。
ＵＰＳ停止後、電源が復旧すると Macintosh は自動的に再起動されます。

１．２停電時の処理



停電が発生した場合、電源の復旧をディレイ１の間待機します。
待機中に電源が復旧した場合には、動作状態を「ＡＣ通電中」に戻します。
ディレイ１の経過後電源の復旧が行われなければシャットダウンの待ち時間になります。
ディレイ２の間に設定されたコマンドの実行またはアプリケーションの終了処理を行います。
ディレイ２の経過後、ＵＰＳにディレイ３の設定時間後に停止するよう指示し、直ちにシャットダウンを行います。

※シャットダウン実行の際、アップルイベントのセーブ終了に対応していないアプリケーション（終了確認ダイアログを表示するようなアプリケーション）を実行中だった場合、ユーザーが終了確認をしない場合には編集中の書類の保存を行わずに強制的にシャットダウンを実行します。

停電発生時、ＡＣ復旧時、シャットダウン準備開始時にはシステムフォルダ下 MacSafe フォルダ内の EventLog というファイルにイベントの情報を記録します。このファイルの内容は「エラーフラグ／発生日時／イベント種別」で、カンマ区切りのテキストデータとなっており Micorosoft Execl 等に取り込んで使用することができます。また、コマンド設定で実行コマンドを設定した場合には、そのコマンドを実行します。

１．３ＵＰＳ停止後の復電時の処理

ＵＰＳ停止後に電源が復旧した場合、Macintosh を自動的に再起動するか、停止するかを選択できます。設定方法につきましては３．２．２項シャットダウン設定の起動または停止ボタンで設定してください。

１．４動作環境

ＭａｃＳａｆｅは以下の環境で動作します。
機種：68030 以上のプロセッサ搭載の Macintosh および Power Macintosh（iMac、G3）
ＯＳ：漢字 Talk7.1 以降のシステム　　(Apple Share IP 対応)

１．５使用上の注意事項

仮想的にメモリを拡張するソフトウェアがインストールされた Macintosh でＭａｃＳａｆｅを実行した場合、AppleShare で接続している利用者がいる状態で停電が発生し Macintosh をシャットダウンしようとしたときにシステムエラーが発生することが確認されています。**仮想的にメモリを拡張した Macintosh でＭａｃＳａｆｅを実行する必要がある場合には、Macintosh の仮想メモリを使用して下さい。**

２．ＭａｃＳａｆｅのインストール

２．１ＵＰＳの接続

ＵＰＳのＲＳ２３２Ｃコネクタと Macintoch のモデムポートまたはプリンタポートを付属のケーブルで接続して下さい。Performa 等のモデム内蔵型の Macintoch の場合は、モデムポートではなくプリンタポートに接続して下さい。モデムポートに接続した場合にはＭａｃＳａｆｅは正しく動作しません。
ＵＰＳの電源を入れて下さい。
接続した Macintoch のポートがモデムポートでない場合は、MacSafe をインストール後、接続ポートの変更を行って下さい。**尚、USB ｲﾝﾀﾌｪｰｽの場合は株式会社パワー社製　mini-iDock を使用してください。**

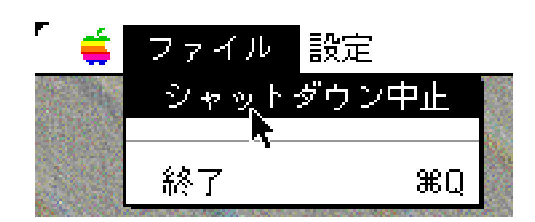
２．２ＭａｃＳａｆｅのインストール

MacSafe のインストールディスクをＦＤドライブに挿入します。
インストールディスク内の MacSafe Installer をダブルクリックします。
MacSafe Installer はシステムフォルダ下に MacSafe というフォルダを作成し、 MacSafe をインストールします。また、システムフォルダ下の起動項目フォルダには MacSafe のエイリアスを作成します。

３．ＭａｃＳａｆｅの操作方法

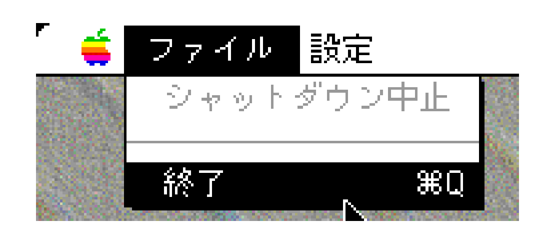
３．１ファイルメニュー

３．１．１シャットダウン中止



停電発生後、シャットダウン待機時間に入ってからシャットダウンを中止したい場合やＵＰＳ前面の操作スイッチをＯＦＦした後にＯＮした場合などにこのメニューを選択すると、シャットダウン処理を中止し動作状態を「ＡＣ通電中」に戻します。

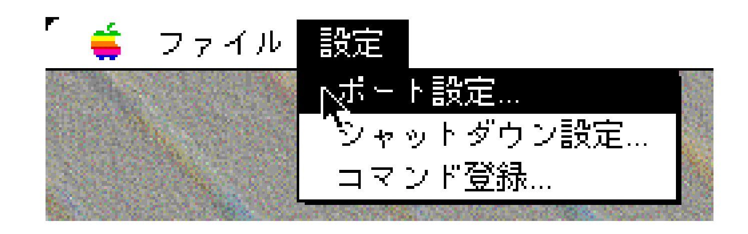
３．１．２終了

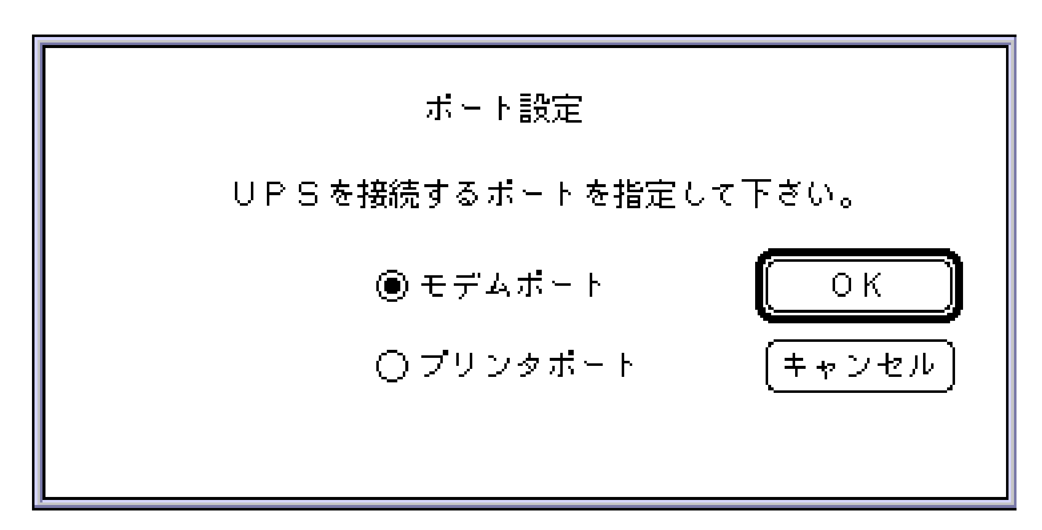


ＭａｃＳａｆｅを終了する場合に選択します。

３．２設定メニュー

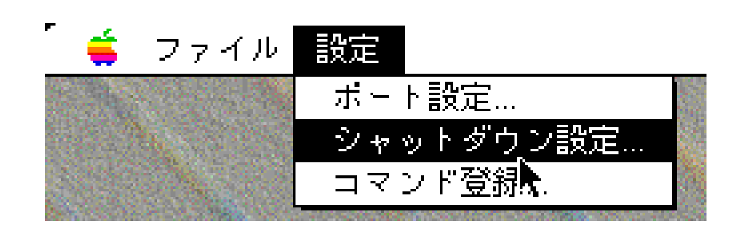
３．２．１ポート設定





ＵＰＳを接続するポートを設定します。
デフォルトのポートはモデムポートです。

３．２．２シャットダウン設定



シャットダウン設定

電源の復旧待ち　アプリケーションの終了処理

停電発生　シャットダウン準備　シャットダウン　ＵＰＳ停止

ディレイ タイム 1

ディレイ タイム 2

ディレイ タイム 3

ディレイタイム　1　120　秒

ディレイタイム　2　60　秒

ディレイタイム　3　60　秒

復電時動作

起動　停止

ＯＫ

キャンセル

停電発生時のディレイ時間及び復電時動作の設定を行います。
デフォルトのディレイ時間・復電時動作は以下の通りです。
ディレイ１：１２０秒　ディレイ２：６０秒　ディレイ３：６０秒
復電時：起動

３．２．３コマンド登録

停電発生、電源復旧、シャットダウン待機開始の各イベントでアプリケーションを実行するかどうかを設定します。シャットダウン待機開始のコマンドを実行した場合、ＭａｃＳａｆｅによるアプリケーションの終了処理は行いません。
ここで設定して実行するアプリケーションはシステムフォルダ下のMacSafe フォルダに各イベント毎に固定の名称で登録して下さい（エイリアスでも可）。アップルスクリプトを実行させる場合にはアプリケーション形式で保存して登録して下さい。
各イベントでの実行アプリケーションの名称は以下の通りです。

イベント	アプリケーション名
停電発生	：ACOFF
電源復旧	：ACREON
シャットダウン待機開始	：SHUTDOWN_WT

デフォルトの設定は各イベントともアプリケーションの実行無しです。

４．アプリケーションの終了及びシャットダウンについて

ＭａｃＳａｆｅによるアプリケーションの終了処理では、アプリケーション終了イベントにセーブオプションを付けて各アプリケーションに送信していますが、アップルイベントに対応していないアプリケーションやアップルイベントに対応していても終了イベントのセーブオプションに対応していないアプリケーション、また名称を入力していない（名称未設定）書類を編集しているアプリケーション等はユーザが何らかの入力をしなければ、書類の保存やアプリケーションの終了が出来ません。このようなアプリケーションが実行中でも、ＭａｃＳａｆｅは「ディレイタイム２」経過後に書類の保存等を行わずに強制的にシャットダウンを行います。
また､ネットワークを介して他のマシンから当該 Macintosh のファイルを共有しているユーザがいる場合にも強制的にシャットダウンを行います。

ＭａｃＳａｆｅを起動中にＵＰＳ前面のオペレーションスイッチを切った場合、停電時と同様にエラーメッセージが表示され時間がカウントされていきます。この時、オペレーションスイッチを入れ直しても時間のカウントは停止されずシャットダウン処理が進行してしまいます。この場合には、ファイルメニューからシャットダウン中止を選択してシャットダウン処理を止めて下さい。

― MACSafe 補足資料 ―

1．MACSafe Install 補足

■MACSafe の Install

◆コンピュータを起動し、CD-ROM ドライブへ「MacSafe」の CD-ROM 媒体をセットして下さい。

◆「MacSafe」CD-ROM から、“ MacSafe Installer ” ファイルを実行して下さい。



◆「Language Setting」画面が表示されるので、“ Japanese ” 又は、“ English ” を選択して下さい。ここまでで、Installer による処理は終了です。



◆次に、CD-ROM からの Install により、コンピュータの「システムフォルダ」配下に、「MacSafe」フォルダが作成されるので、この「MacSafe」フォルダの中に、「MacSafe」CD-ROM の「スクリプト」フォルダの中のファイルを全てコピーして下さい。

以上で、MacSafe の Install は終了です。

続けて、UPS とコンピュータが通信する為の「通信ケーブル接続」を行って下さい。

※「通信ケーブル」が接続されていない状態では、コンピュータの「再起動」は行わないで下さい。再起動時に「ストール」する可能性があります。
やむおえず「再起動」する場合は、「コントロールパネル」の「機能拡張マネージャ」より、「起動項目」にある「MacSafe のエイリアス」のチェックを外して下さい。
これにより「再起動」は可能になります。
「通信ケーブル」の接続後は、元の状態に戻して下さい。
（「通信ケーブル」が接続されていない場合又は、「起動項目」の「MacSafe のエイリアス」のチェックが外れている場合は、MacSafe は機能しません。）

■通信ケーブルの接続

◆UPS の「RS232C」ポートに、「MacSafe」に添付されていた通信ケーブルを接続して下さい。

◆次に、「通信ケーブル」の反対側をコンピュータの「シリアルポート」に接続して下さい。
コンピュータに「シリアルポート」が無く、「USB」ポートしかない場合は、市販の「USB-シリアル変換コネクタ（弊社推奨品：NEW MOTION 社の「mini-Idock」）」をご用意いただき、接続して下さい。

■自動起動の設定

◆自動起動の設定をすることにより、「停電」発生による「MacSafe」のシャットダウン後、「停電回復」により、コンピュータを自動起動させることができます。
設定は、下記になります。

◆サーバ設定

・下記のように「サーバ設定」画面を表示し、「不意に電源が切れた時に自動的に再起動する」にチェックをして下さい。



◆マルチユーザ設定

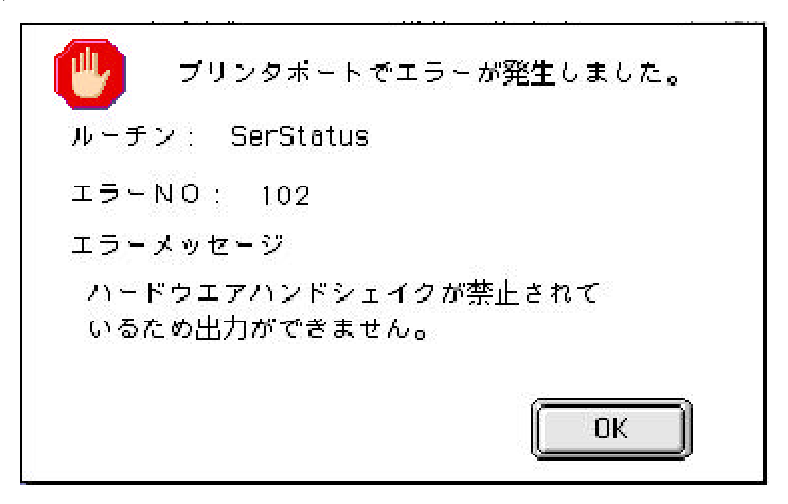
・下記のように「マルチユーザ」画面を表示し、「マルチユーザのアカウント：」を「切」にして下さい。



2． MacSafe 起動時エラーの解決方法

■起動時のエラー

◆エラーメッセージ



◆エラー内容

・MacSafe の起動時にプリンターポートの競合が発生しました

■回避方法

◆“拡張機能マネージャ”より下記 3 点を無効にして下さい。

1．“USB Printer Sharing”のチェックを外して下さい。



2．“ PrintingLib ” のチェックを外して下さい。



3．“ USB Printer Sharing Extension ” のチェックを外して下さい。

